



# 「あきたのそこちから」に学ぶ 相手の話に反応しながら聞く児童を育てる！

本通信の9号で、秋田県の授業の特徴として、児童が自主的に授業を進める場面が多くあると紹介しました。そのような授業を行うために城南小学校では、児童が相手の話に反応しながら聞くことを大切にしています。先生方からは、「反応することは、低学年からの積み重ねで、本校の強みである。」という声が聞かれます。

本号では、城南小学校の「城南っ子の基本3行動」の一つである、6年間を通して「相手の話に反応しながら聞く児童を育てる」取組を紹介します。

## 6年生の教室では

6年生の教室には、児童が考えた「相手の話によい反応をするために」という掲示があります。授業を自主的に進めるために、よい反応について児童に考えさせる時間を確保しています。反応する時の言葉だけでなく、相手の話に反応するための聞く態度や、授業の中で発言をつなげる言葉（「質問します」「反論します」「つけ足します」）も児童から出ています。



6年生の教室掲示

**ポイント** 高学年では教師が一方向的に反応の仕方を示すのではなく、右の掲示のように児童が考えて実行しています。このような6年生の姿は、1年生からの継続した指導の成果です。

## 1年生の取組～反応しながら聞くことを身に付ける～

### ○反応する言葉を教える。

- ・「いいねえ〜。」…よい発言の後や朝の健康観察で、「はい、元気です。」と言った児童に対して。
- ・「なるほど〜。」…自分が思いつかなかった発言の後に。
- ・「どんま〜い。」…手を挙げた後に、「忘れました。」と言った児童、黙ってしまった児童に対して。
- ・「お大事に。」…朝の健康観察で、体調不良を訴えた児童に対して。

### ○反応の仕方を教える。

- ・反応するとは、うなずくこと、首をかしげること、表情を変えること、拍手をすることなど。

### ○発表で困ったときの対処法を教える。

発表者…「言い方がわかりません。」「だれか助けてください。」「だれかつなげてください。」  
 周りの児童…「〇〇さんを助けます。」「〇〇さんに教えます。」  
 「〇〇さんが言いたかったのは、〇〇だと思います。」

**ポイント** 1年生ではまず、安心して発言できる環境づくりを大切にしています。どんな発言や表現でも受け止め、発表者が困ったときには周りの児童が反応し、明るく励まし助け合う取組がなされています。反応の言葉や仕方を教え、相手の話に反応しながら聞く良さを児童に実感させています。  
 1年生の担任は、「どんな授業や活動でも、また授業者が替わっても、いつでも同じようにできる子ども達に育てる」ことを意識して、指導をされています。

城南小学校では、児童への指導を行うとともに、授業だけでなく日々の生活においても、先生方が自ら児童のお手本となるように、よい反応の仕方を心がけ、実践しています。相手の話に反応しながら聞くことは、自分事として捉えることであり、城南小学校の子ども達の姿から、反応しながら聞くことが児童生徒同士の発言がつながることへと発展していくことが分かります。まさに「主体的・対話的で深い学び」を進めていく上で、児童生徒に身に付けさせたい力の一つです。

